

必読!

これだけは知っておきましょう。

マークIIとともに、
より安全・快適なカーライフを
お楽しみいただくために

これだけは知っておきましょう。

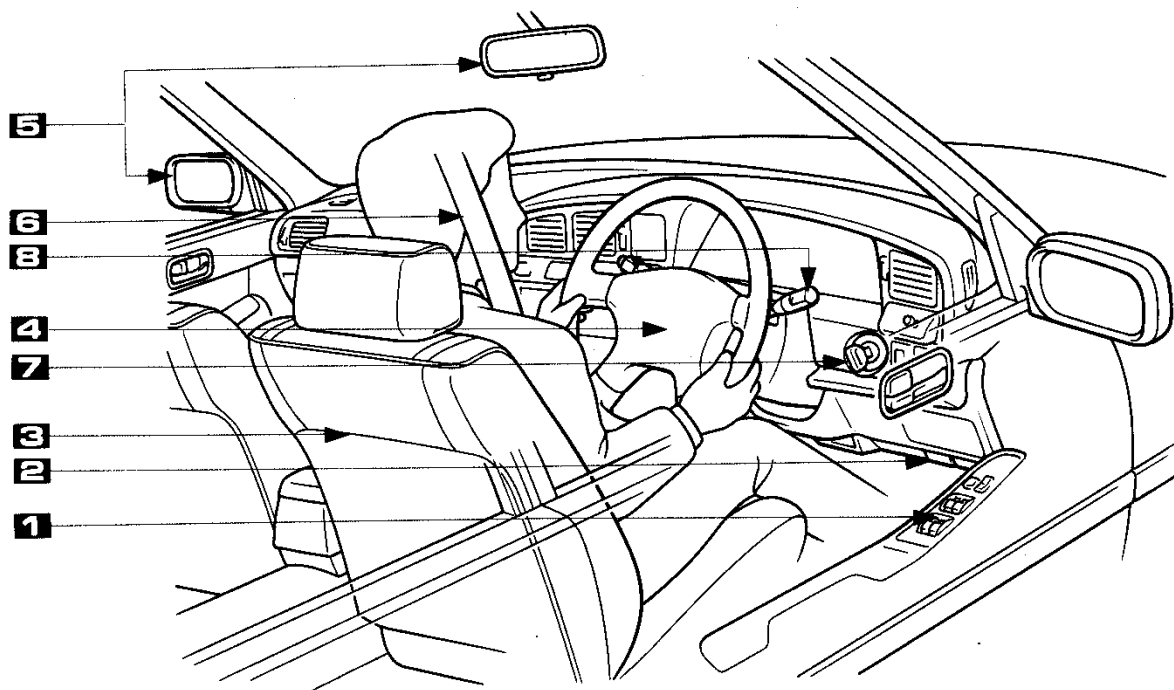
ドライバーとしてこれだけは知っておいていただきたい項目を
以下の必読ページにまとめてあります。

安全・快適なカーライフをお楽しみいただくため、
ぜひお読みください。

マークⅡの基本操作要領

(詳しくは、本文をご参照ください。)

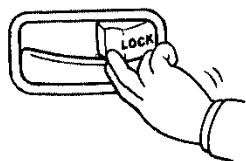
まずは、あなたの指定席「ドライバーシート」に腰をおろして……



1 ドア、ウィンドウ(24ページ)

走行中は必ずドアをロックしましょう。

また、LG、GRサルーン、GR、タクシー(高級バック)のウィンドウは各ドアのスイッチ操作で開閉できるパワーウィンドウです。



走行中は必ずドアを
ロックしましょう。

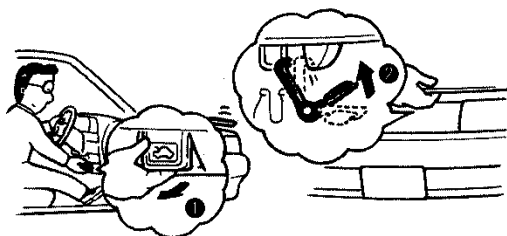


お子さまを乗せたときは
LOCKにしましょう。

2 ボンネット(28ページ)

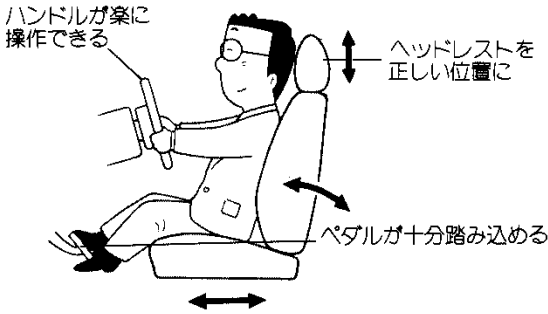
ボンネットの開け方は

- ①計器盤右下のレバーを引く。
- ②ボンネットロックをはずす。



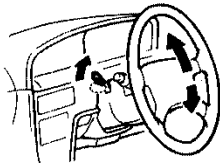
3 シート調整(31ページ)

- ①ペダルが十分踏み込める。
- ②ハンドルが楽に操作できる。
- ③ヘッドレストが耳の後方になるように、走行前に調節してください。



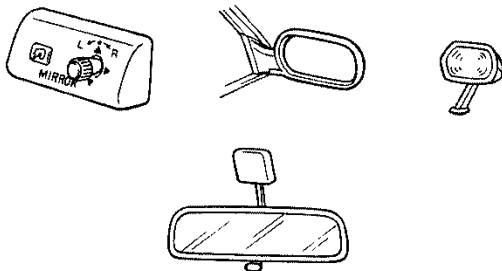
4 ハンドル位置調整(37ページ)

ハンドルは、角度調整ができます。
走行前にハンドル操作がもっとも楽な位置に調整してください。



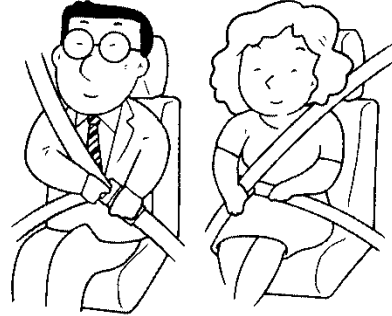
5 ミラー調整(38ページ)

走行前に、後方、左右がもっとも確認しやすい角度に調整してください。また、電動格納式ドアミラー付き車はスイッチ操作でミラーを自動で格納することができます。



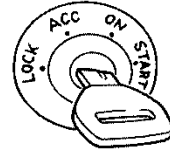
6 シートベルト(34ページ)

シートベルトは必ず着用してください。着用するときは、腰部ベルトを必ず腰骨の位置に着用してください。妊婦、疾患のあるかたおよびお子さまの着用は危険な場合があります。

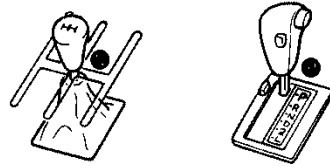


7 エンジン始動(41ページ)

エンジンスイッチの各位置は図のとおりです。

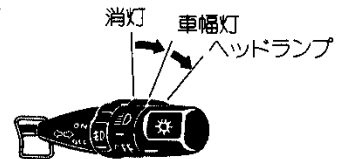


- ①エンジンを始動する前に必ずブレーキペダルを踏むか、パーキング(駐車)ブレーキをかける。
パーキング(駐車)ブレーキには足踏み式もあります。
□44ページを参照してください。
- ②マニュアルトランスミッション車はN、オートマチックトランスミッション車はPにはまっていることを確認してください。



8 ライト、ワイパースイッチ(47ページ)

ライトスイッチ



ワイパースイッチ

時間調整式

間けつ式

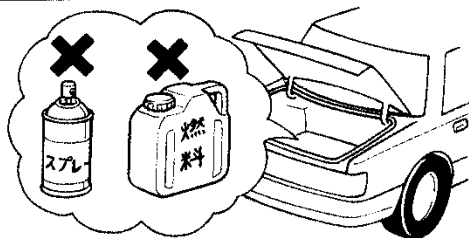


「準備よし！」までの

Check Point

積んでいませんか？

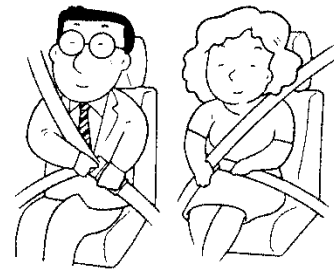
危険物は持ち込み禁止です。



車内およびトランク内に燃料がはいった容器やスプレー缶を持ち込まないでください。
蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

忘れていませんか？

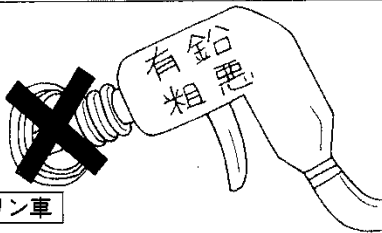
シートベルトは必着です。



正しい着用方法は34ページを参照してください。

いれていませんか？

有鉛ガソリン、粗悪ガソリンお断りです。



ガソリン車

ガソリンの補給は、必ず無鉛ガソリンにしてください。
有鉛ガソリンやトヨタ純正品以外のガソリン添加剤を使用すると、触媒装置を損ないます。
また、粗悪ガソリンを使用すると、エンジン各部に悪影響をあたえますので注意してください。

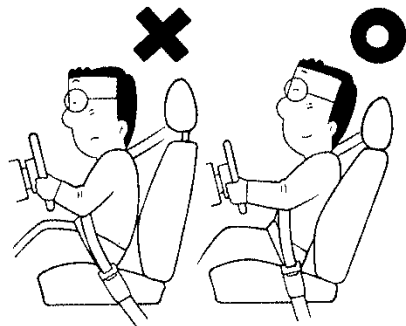
ディーゼル車

必ず軽油を補給してください。

LPG車

LPガスを補給してください。LPガスの充てんはスタンドの係員にまかせてください。LPガスの充てんについては112ページを参照してください。

ヘッドレストは高すぎず、低すぎず、
頭との間はあけすぎず。

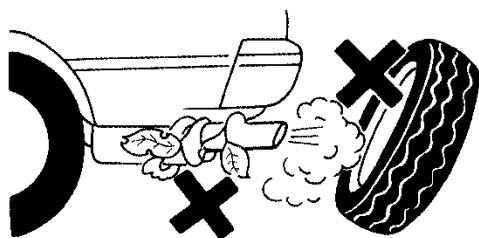


「エンジン始動、さあ出発！」までの

Check Point

確認しましたか？

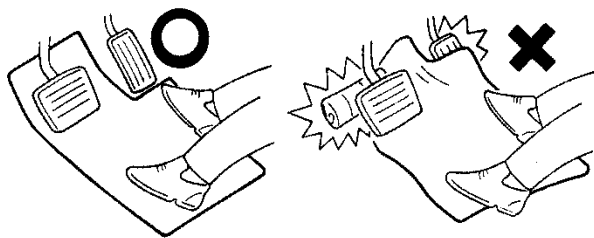
車両後方、排気管にからんだ可燃物は危険です。



始動前に車両後方に燃えやすいものがないか、排気管に枯れ草などが巻きついていないか確かめてください。

運転席の足元はすっきりと！

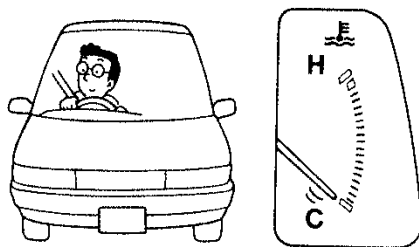
運転席付近に物を置くと危険です。フロアマットは車にあったものを正しく敷く。



1. 運転席足元に空缶などの物を置くとブレーキペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなるなど危険です。
2. フロアマットはアクセルペダルに引っかからないよう、車にあったものを正しく敷いてください。アクセルペダルをおおったり、重ねて敷くとアクセル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

暖機は適切ですか？

水温計の指針が動き出す程度で十分です。



長すぎると燃料のムダになります。

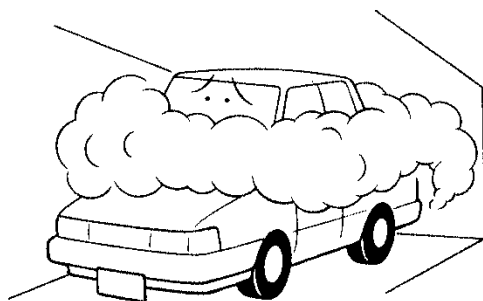


ちょっと一言

暖機運転中はもちろん、エンジンが回っているときは車から離れないでください。

危険はありませんか？

密閉した車庫内でエンジンをかけたままにしない。



ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、必ず換気をよくしてください。

「安全・快適走行」のための

Check Point

こんなときは要注意！

次のような警告灯、計器の警告を無視して運転を続けると、触媒装置を焼損するおそれがあります。

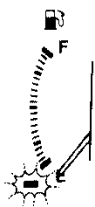
排気温警告灯または充電警告灯が点灯したら、安全な場所へ停止。



触媒装置の温度が異常に高くなっています。

必ず54ページを参照して、点灯時の処置を行ってください。〈ガソリン車、LPG車〉

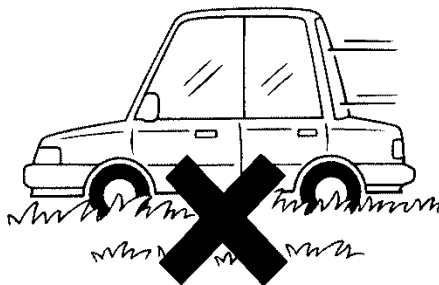
燃料計がE以下になる前に補給。



走らないで！

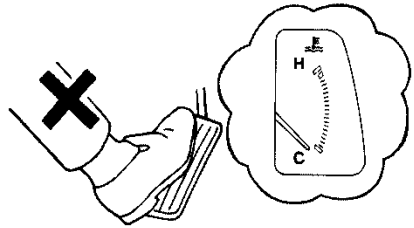
枯れ草、紙くずなど

燃えやすいものの上は走行拒否。



あおらないで！

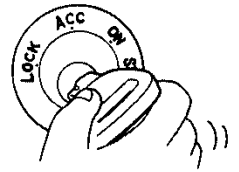
暖機不足の発進時、極端にアクセルペダルをあおらないでください。



未燃焼ガスが触媒装置に流れ、触媒装置を焼損するおそれがあります。〈ガソリン車、LPG車〉

切らないで！

走行中はもちろん、高回転直後でもエンジンスイッチを切らないでください。

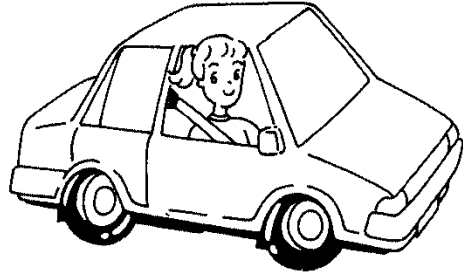


1. 触媒装置を焼損するおそれがあります。〈ガソリン車、LPG車〉
2. 走行中エンジンスイッチをACCまたはLOCKの位置にすると、
 - ブレーキの効きが悪くなります。
 - パワーステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が作用しないため、ハンドル操作が非常に重くなります。
 - LOCK位置にするとキーが抜けることがあり、キーが抜けるとハンドルがきれなくなり危険です。
 - 各種警告灯が作用しなくなり危険です。

オートマチック車の正しい運転のしかた

(☞45ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。)

オートマチック車は、クラッチとギヤチェンジの操作を自動化したもので、その分運転が楽になります。しかし、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性をよく理解し、正しく操作する習慣をつけてください。



オートマチック車の特性

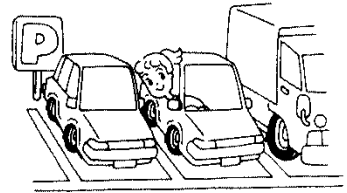
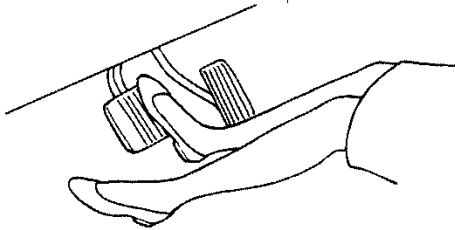
クリーブ現象

エンジンがかかっているとき、チェンジレバーがD以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出す現象をいいます。

● 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキング(駐車)ブレーキをかけてください。

● エンジン始動時やエアコン作動時などに、自動的にエンジンの回転が上がるアイドルアップ時には、クリーブ現象が強くなるため、ブレーキペダルをよりしっかりと踏む必要があります。

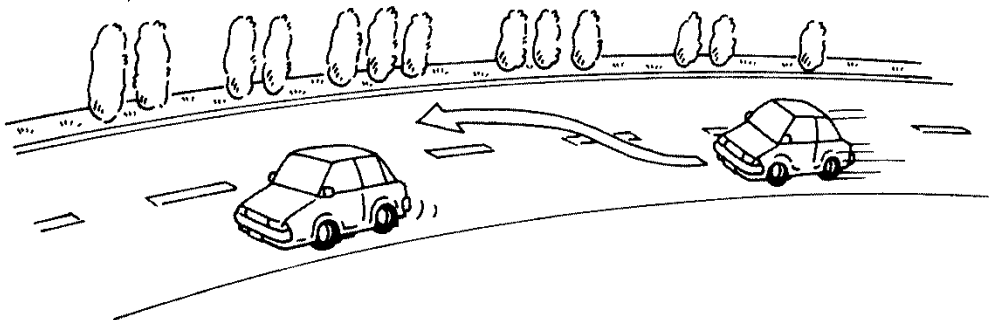
● 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節するとスムーズに行えます。



キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

● 追いこし時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。



運転のしかた

エンジンをかける前に

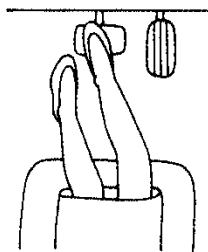
1 正しい運転姿勢をとる。

ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

2 アクセルペダルの位置を確認。

3 ブレーキペダルの位置を右足で確認。

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。



エンジン始動

詳しくは41ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

1 パーキング(駐車)ブレーキを確認。

2 Pの位置を目で確認。

Nの位置でも始動できますが、安全のため車輪が固定されるPの位置で行ってください。

3 エンジン始動。

4 ブレーキペダルを右足で踏む。

ブレーキペダルは右足で

確実なブレーキ操作をするために、右足でブレーキペダルを踏んでください。
慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるおそれがあります。

発進

1 ブレーキペダルを右足で
しっかり踏んだまま。

チェンジレバーをDやRにいれると、クリーブ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。発進時のレバー操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行ってください。エンジン始動直後やエアコン作動時などアイドルアップしているときは、車が動こうとする力がとくに強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

2 チェンジレバーを
前進はD、後退はRにいれる。

レバー操作は、絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行ってはいけません。車が急発進し、思わぬ事故の原因につながります。

3 チェンジレバーの
位置を目で確認。

4 パーキング(駐車)
ブレーキをもどす。

5 ブレーキペダルを徐々に
ゆるめ、アクセルペダルを
ゆっくり踏み加速。

マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作とアクセル操作を併用していますが、オートマチック車では、アクセル操作のみ行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。

急な坂道の発進

チェンジレバーの位置を目で確認したら、

- まずアクセルペダルをゆっくり踏み、
- 車が動き出す感触を確認してから、
- パーキング(駐車)ブレーキをもどし発進。

運転のしかた 走行

通常走行

チェンジレバーを①のまま走行。

アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速ができます。

急加速

アクセルペダルをいっぱい踏み込む。

キックダウンし、急加速できます。

上り坂をなめらかに走るには

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。このようなときは、あらかじめ②にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

走行中は③にしない

チェンジレバーを③にすると、エンジンプレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因になります。また③で走行しても燃費は変わりません。

下り坂走行

エンジンプレーキを併用

下り坂を①のまま走行すると、エンジンプレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンプレーキを併用してください。

チェンジレバーを②に入れて、エンジンプレーキを使います。



オーバードライブ付き車の場合

O/DスイッチをOFFにすることによっても軽いエンジンプレーキが得られます。高速道路などの長い下り坂などで使うと有効です。

急な下り坂

より強いエンジンプレーキが必要な場合は④に入れる。

各シフト位置での速度範囲

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

(単位: km/h)

エンジン型式 シフト位置	1 G-FE	4 S-FE	2 L-T	3 Y-P
L	55	60	40	45
2	95	100	75	85

ブレーキペダルは右足で

確実なブレーキ操作をするために、右足でブレーキペダルを踏んでください。
慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるおそれがあります。

必読 /

停車

1

①のままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリーブ現象が強くなりますので、車が動き出さないように、とくに注意してください。

2

必要に応じてパーキング(駐車)ブレーキをかける。

急な上り坂での停車はクリーブ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキング(駐車)ブレーキをかけてください。

停車時間が長くなりそうなときは
チェンジレバーをNにに入れる。

停車中の空ふかしは禁物

万一、P・N以外にはいつていると思わぬ急発進の原因になります。

停車後の再発進

チェンジレバーが①の位置にあることをしっかり確認してから、発進してください。

駐車

1

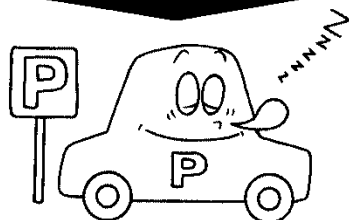
車を完全に止める。

2

ブレーキペダルを踏んだまま、パーキング(駐車)ブレーキを確実にかける。

3

チェンジレバーをPにに入れる。



①では車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には、必ずチェンジレバーがPの位置にあることを確認してください。

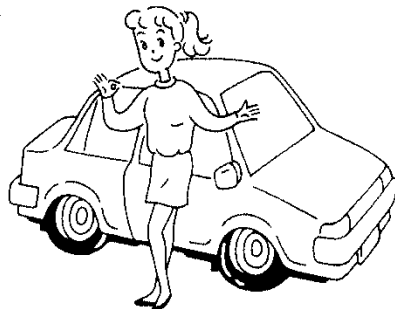
4

エンジンを切る。

車を離れるときは必ずエンジンを切ってください。エンジンをかけたままにしておくと、万一、チェンジレバーが①以外にはいつていた場合、クリーブ現象で車がひとりで動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどは**P**にいられたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはずぐ**N**にもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどで**D**から**R**、**R**から**D**と何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で**D**のままアクセルをふかしながら止まってはけません。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
- 車輪が完全に止まらないうちに、チェンジレバーを**P**に入れるのはやめてください。無理な力がかかり、トランスミッションをいためることがあります。



シフトロックシステムについて

この車にはシフトロックシステムがついています。よく理解して正しい操作にお役立てください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でなければP**からレバー操作できません。**

- エンジンスイッチがACCまたはLOCKのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

****P**以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。**

- エンジンスイッチからキーを抜くときは、チェンジレバーを**P**に入れてください。
(**P**以外ではキーをACCからLOCKに回せません。)

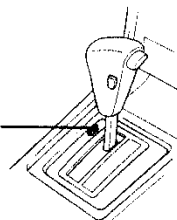
****R**にいれるとブザーが鳴ります。**

- ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。

■シフトロック解除ボタン

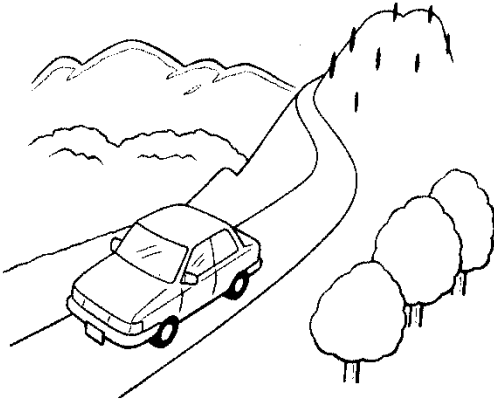
万一、ブレーキペダルを踏んでも**P**からレバー操作できないときは、ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押しながら、レバー操作してください。

シフトロック解除ボタン



必ず知っておきたいドライブテクニック

● 長い坂道を下るときは



フットブレーキと
エンジンブレーキ*1を併用。

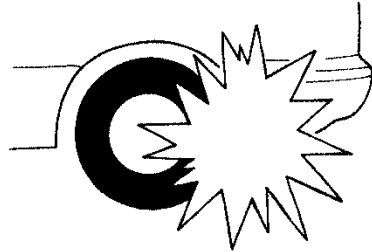
1. フットブレーキを踏み続けると「ベーパーロック」*2や「フェード現象」*3を起こし、ブレーキの効きが悪くなることもあり危険です。
2. ぬれた路面または冰雪路での急激なエンジンブレーキの使用はさけてください。スリップの危険があります。

*1「エンジンブレーキ」とは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

*2「ベーパーロック」とは、ブレーキの摩擦熱によりブレーキ液が加熱されて、沸騰し泡が発生し、ブレーキペダルを踏み込んで、気泡を圧縮するだけで、ブレーキ力とはならない現象。

*3「フェード」とは、ブレーキの摩擦面が、加熱されると摩擦力が減るので、同じ力でブレーキペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象。

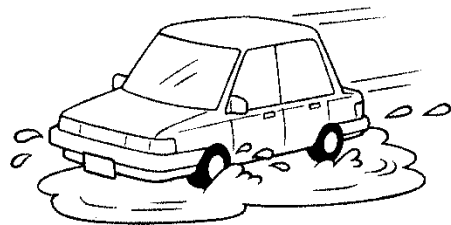
● 高速走行中に パンクやバースト(破裂)したときは



ハンドルをしっかりとって、
徐々にブレーキをかけてスピードを
落としてください。

急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ危険です。

● 洗車後や水たまりを 走行したあとは



ブレーキペダルを軽く踏んで
効き具合を確認してください。

洗車後あるいは水たまり走行後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

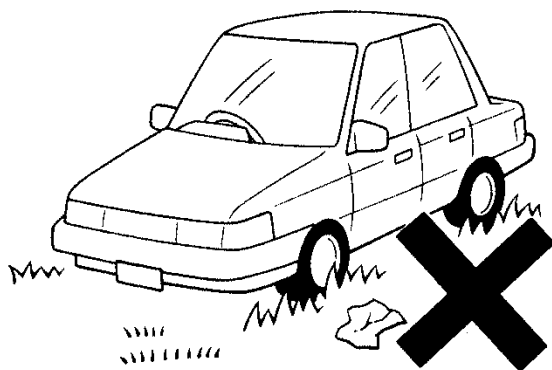
効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキの湿りをかわかしてください。

駐停車時の

Check Point

必ず確認「可燃物なし」

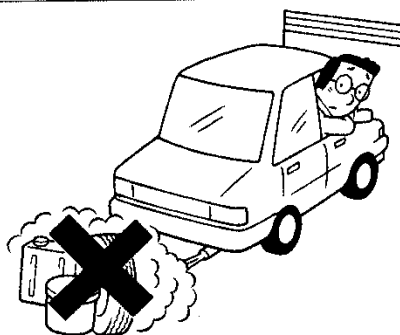
枯れ草、わら、紙、布、樹脂、油、古タイヤなど要注意。



ちょっと一言

1. 走行後の排気管は高い温度になりますので、燃えやすいものが近くにあると着火する危険があります。
2. エンジンを空ふかししたり、高回転を長く続けたりした場合には、排気ガスが燃えやすいものに当たり着火する危険があります。

車庫内停車は後方確認を第一に。



あらかじめ、燃えやすいものがないことを確かめてから停車してください。



ちょっと一言

1. 排気ガスは、場合によっては高い温度になるので、万一の場合わらなど燃えやすいものに着火するおそれがあります。
2. 木材、ベニヤ板などが車両後方にある場合は、車両後端を30cm以上離して止めてください。
すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、万一の場合着火する危険があります。

仮眠するときには？

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にチェンジレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあり危険です。

必ずエンジンを始動させて！

坂道などで車をちょっと動かすときにも必ずエンジンを始動させてください。

エンジン停止時は

- ブレーキペダルが重く、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。
- パワーステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が作用しないため、ハンドル操作が非常に重くなります。

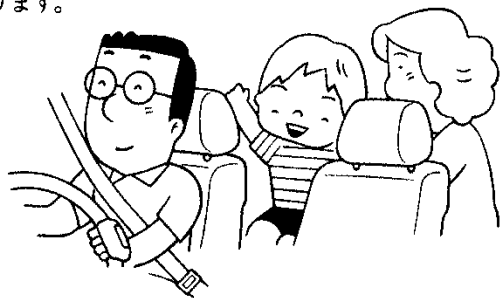
お子さまを乗せるときの

Check Point

お子さま専用席は？

なるべく大人と一緒にリヤシート。

フロントシートだと万一のとき放り出される心配があります。

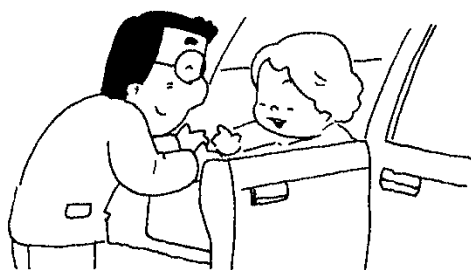


助手席ではお子さまの動作が気になり、安全運転のさまたげになります。

お子さまが、運転装置、装備などにさわると思いがけない事故が起きるおそれがあります。

車から離れるときは？

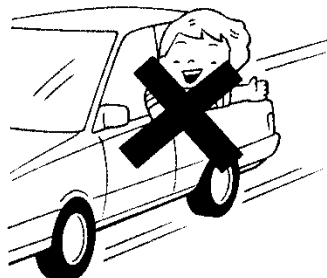
お子さまは必ず一緒に連れて出る。



お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの事故が起きるおそれがあります。また炎天下での車内はたいへん高温となり危険です。

危険です。迷惑です。

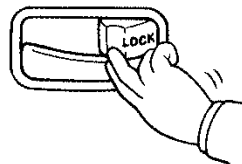
窓から、手や顔などを出させない。



開閉、確認大人の仕事！

ドアは確実に閉じ、必ず施錠。

お子さまをリヤシートに乗せるときはチャイルドプロテクターをご使用ください。
 □25ページを参照してください。



ドア、ウィンドウの開閉は必ず大人がしましょう。



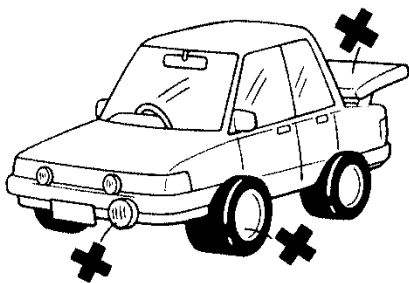
お子さまが手などはさむ場合があります、危険です。また、パワーウィンドウのスイッチは必ず大人が操作してください。お子さまがパワーウィンドウスイッチをいたずらして、手や首をはさむと危険です。お子さまを乗せるときは必ずウィンドウロックスイッチ (□28ページ参照) をご使用ください。

お車をダメにしないための

Check Point

触れないで！

走行装置など重要個所の改造はしない。



車の性能や機能に適しない部品を装着すると、思いがけない事故が発生する場合があります。



ちよつと一言

トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると違反になることがあります。アクセサリを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

ウインドウガラスなどには アクセサリを取りつけないで。

安全運転のさまたげになるとともに、アクセサリの吸盤がレンズの働きをして、火災など思わぬ事故の原因となります。

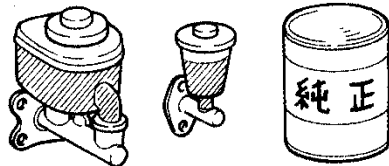
自己流のエンジン調整、電装品の取り付け、部品の取りはずしは行わない。

エンジン調整、電装品の取り付けなどはトヨタ販売店におまかせください。

電装品の間違った取り付けは、故障や火災など思わぬ事故の原因になります。

愛車はいつも 健康ですか？

こんなときはトヨタ販売店で
点検を受けてください。



1. いつもと違うおかしい音や臭いがするとき。
2. ブレーキ液、クラッチ液が不足しているとき。
3. 駐車してあった地面に油が漏れたあとが残っているとき。

タイヤ、ディスクホイールを交換するときは。

1. トヨタ販売店で相談してください。
2. 異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは車の安全走行に悪影響をおよぼしますので絶対にさけてください。

無線装置を取りつけるときは。

1. トヨタ販売店で相談してください。
2. 取り付け方法が適切でない場合、電子制御部品に悪影響をおよぼすことがあります。

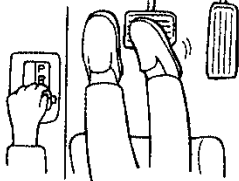
続けないで！

パワーステアリング(ハンドル操作力
軽減装置)はハンドルをいっぱいこ
した状態を長く続けないでください。

オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリングポン
プを損傷するおそれがあります。

——おっと危ない気をつけて！——

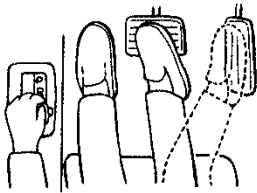
- 発進時オートマチック車のシフトチェンジは必ずブレーキを踏んだまま!!



エンジン回転が高いとき(始動直後、エアコン作動時)は、ブレーキペダルを十分に踏んでいないと車が動き出ることがあります。

シフト位置を確かめ、まわりの安全を確認してから発進します。

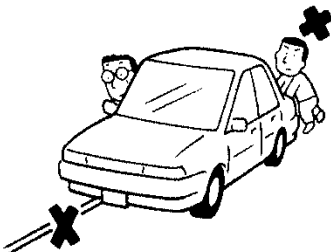
- ブレーキ操作は必ず



右足で行ってください。

右足をアクセルペダルにのせたまま、左足でブレーキ操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの摩耗を早めるおそれがあります。

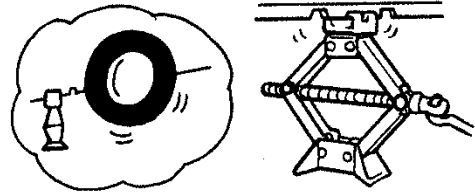
- バッテリーあがりのとき



車を押したり、けん引したりしてエンジン始動をしないでください。

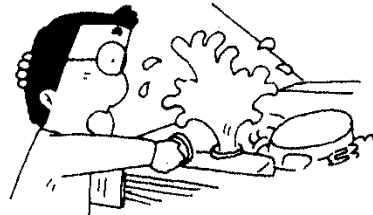
触媒装置の温度が異常に高くなり焼損するおそれがあります。☞95ページの「バッテリーあがりの処置」を参照してください。

- ジャッキを使用するときは正しい位置にセットしてください。



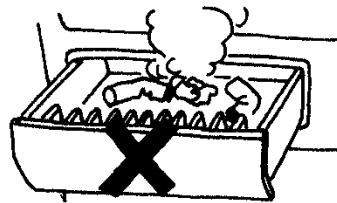
またパーキング(駐車)ブレーキ、輪止め(搭載工具に含まれています)を忘れないようにしてください。☞87ページの「ジャッキ」を参照してください。

- ラジエーターキャップが熱いときは必ずささないでください。



蒸気や熱湯が吹き出し、危険です。

- 灰皿を使用したあとは必ず閉めてください。



開けたままにしておくと、タバコの火が他の吸いながらに燃えひろがり、火災になるおそれがあります。



ちょっと一言

1. マッチ、タバコの火は消してから灰皿の中へ入れてください。
2. 灰皿には吸いながらためすぎないでください。
3. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものをいれないでください。

ターボ車の取り扱いCheck Point

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

定期的なオイル交換はターボ車の絶対条件!

- エンジンオイルは必ず5,000kmごとに交換(ただし6カ月をこえないこと)してください。



- オイルフィルターは必ず10,000kmごとに交換してください。



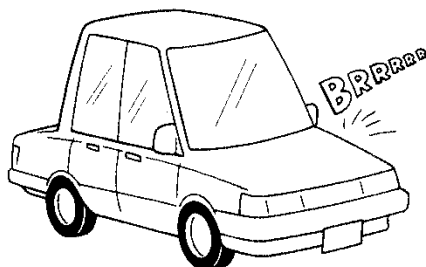
ちよつと言

ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンから、より大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。毎分10万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルによってなされています。したがって、定められたエンジンオイル、オイルフィルター交換をお守りいただかないと、劣化したエンジンオイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。

- エンジンオイルはAPI基準CD相当で粘度分類10W-30以上のオイルを使用してください。

トヨタ純正キャスル・ディーゼルオイルニュースペシャルII<CD>をおすすめします。詳しくは「整備手帳」をご覧ください。

高速走行・登坂走行直後エンジンを止めないで!

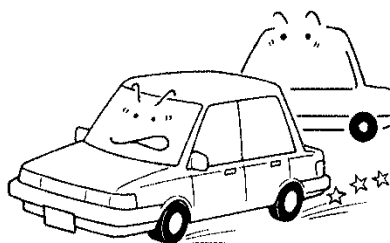


高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、下表にしたがって必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してください。

エンジン停止前のアイドル運転時間

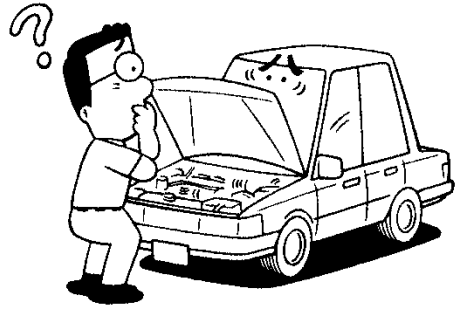
運 転 状 況	アイドル運転時間	
市街地、郊外などの一般走行	必要なし	
高速走行	約80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行	約2分	

エンジンが冷えているときの空ふかし・急加速は絶対ダメ!



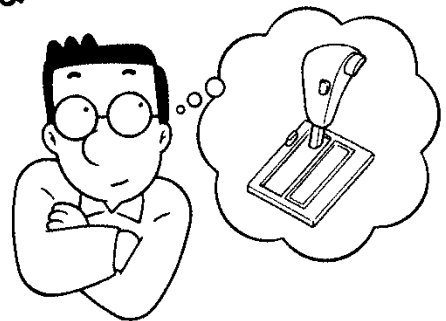
- マフラーなどには指定以外の部品を使わないでください。

こんなときは……………



- 走行中エンジンが止まったときは……………93
- バッテリーがあがったときは……………95
- オーバーヒートしたときは……………95
- 警告灯が点灯したときは……………54
- ランプ類が点灯しないときは(ヒューズ切れ、電球切れ)……………97, 100
- 踏切内で動けなくなったときは……………93
- 故障したときは……………93
- 発炎筒を使うときは……………94
- 床下に強い衝撃を受けたときは……………93
- パンクしたときは……………88
- けん引するとき、してもらうときは……………96
- タイヤチェーンをつけるときは……………110
- 事故・故障のときの修理連絡先は……………「整備手帳」参照

こんな装備のお車に乗られているかたは……………



- オートマチックトランスミッション車に乗られているかたは……………45
- LPG車に乗られているかたは……………112